

令和3年9月17日

豊島区

独立行政法人 都市再生機構（UR）が発行する ソーシャルボンドの購入について

令和2年7月、豊島区は東京都で初めて「SDGs未来都市」及び「自治体SDGsモデル事業」にダブル選定され、SDGsの目指す「誰一人取り残さない」社会の実現に取り組んでいます。

基金の運用においてもSDGsの推進に貢献するため、令和3年9月17日、「独立行政法人 都市再生機構（UR）」が発行するソーシャルボンドを購入しました。本区がURのソーシャルボンドを購入するのは、昨年引き続き2回目となります。

○ 選定理由

- ・ 本区では、自治体SDGsモデル事業「池袋駅周辺の4公園を核にしたまちづくり」の舞台の一つである、区内最大の公園「としまみどりの防災公園（イケ・サンパーク）」の整備、木密地域の不燃化事業及び市街地再開発事業等をURと共同で実施している。
- ・ URが実施する事業は、これまで本区が進めてきた「誰もが主役になれる『国際アート・カルチャー都市』」の実現や、SDGsの理念と同じ方向を目指すものである。

今後も本区は、SDGs未来都市として、SDGsの理念や目標を踏まえて積極的な取り組みを推進し、国際アート・カルチャー都市の実現に努めてまいります。

※ SDGs未来都市・自治体SDGsモデル事業とは

「SDGs未来都市」とは、SDGsの理念に沿った取り組みを推進しようとする都市・地域の中から、特に、経済・社会・環境の三側面における新しい価値創出を通し、持続可能な開発を実現するポテンシャルが高い都市・地域を内閣府が選定するもの。また、その中で特に先導的な取り組みが「自治体SDGsモデル事業」として選定される。（参考リンク：[「SDGs未来都市」豊島区](#)）

※ ソーシャルボンドとは

資金使途が社会的課題の解決に資するものに限定される債券。URが発行するソーシャルボンドは、都市再生や賃貸住宅、震災復興などの事業に活用されることから、国際的なソーシャルボンド原則に適合しているとの第三者評価を得ている。